

# 神奈川県山間部でみられた犬の東洋眼虫症 13 例 (2021～2024 年)

小島健太郎<sup>1)†</sup> 小島早織<sup>1)</sup> 江成暁子<sup>1)</sup> 内海恵利<sup>1)</sup>  
平松 栞<sup>1)</sup> 高島康弘<sup>2)</sup> 齋藤大蔵<sup>2)</sup>

1) 神奈川県 開業 (あすなる動物病院: 〒243-0112 愛甲郡清川村煤ヶ谷 148)  
2) 岐阜大学応用生物科学部 (〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1)

(2025 年 5 月 19 日受付・2025 年 10 月 27 日受理・2026 年 2 月 27 日公開)



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/2/79\\_e15/\\_article-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/2/79_e15/_article-char/ja)

## 要 約

東洋眼虫 (*Thelazia callipaeda*) は、犬、猫、人、野生哺乳類の眼に寄生し、ショウジョウバエ科マダラメマトイ属が媒介する人獣共通の寄生虫である。今回、神奈川県山間部で 13 例の犬を東洋眼虫症と診断した (年間平均罹患率 0.26%)。症例は、雄 9 例、雌 4 例、年齢中央値 10 歳、体重中央値 13.1 kg であった。12 例が山間部に居住し、10 例は室内飼育であった。犬糸状虫予防薬は 6 例に投与されていたが、発症は 6～12 月に多かった。回収虫体数中央値は 3 隻 (1～15 隻) であった。治療は虫体摘出が 10/12 例 (83%) で有効であり、3 例はイベルメクチン注射を必要とした。本症は、保虫宿主となる都市型野生動物の生息地の広がりに伴い発生域の拡大が疑われ、眼症状を示す犬では地理的環境を考慮し鑑別診断に加えるべきである。

——キーワード: 犬, 東洋眼虫, 人獣共通感染症, マダラメマトイ, 節足動物媒介感染症.

----- 日獣会誌 79, e15～e20 (2026)